特定非営利活動法人
メンタルケア協議会
Japanese Association of Mental Health Services

平成20年度厚生労働省障害者保健福祉推進事業
（障害者自立支援研究プロジェクト）

うつ病からの社会復帰支援のための通院・在宅医療、福祉連携強化モデル事業

～女性の遷延うつからの社会復帰支援モデル～

特定非営利活動法人メンタルケア協議会
羽藤　邦利

はじめに

「遷延うつ」が多い

F3で通院中の患者1397名のうち

6ヶ月以上ニート状態　174～211名（12.5～15.1%）

2年以上ニート状態　　125名（8.9%）

全国では12.4～16.4万人

「遷延うつ」は深刻なことである

「女性の遷延うつ」の深刻さ

「女性の遷延うつ」は家族全体に影響を与えるなど、男性以上に深刻な場合も多い

女性の「遷延うつ」へのサポート

リワークプログラムは男性向き？

リワークプログラムは仕事をもった「遷延うつ」の人の復職支援プログラム。主に男性向き。

女性は、仕事、家事、育児、主婦など多様な役割を持っているのでリワークプログラムが役立たない

「女性の遷延うつ」ためプログラムがない

通院・通所・在宅で行えるプログラムが欲しい。

予備的調査

長年の双極性障害の事例2つ

事例１；主婦業（家事・育児）できないのを夫が長年にわたって負担し続けている。

事例２；主婦業（家事・育児）できず、離婚。両親が支え続けてきている。

研究の目的

- 女性の遷延うつのサポートのあり方を考える
- 外来通院しながら行えるプログラムを考える
  - 本人だけでなく、家族の支援も
  - 医療機関だけでなく、福祉施設や訪問介護などの福祉サービス活用の可能性
- 現状で出来ることを色々やってみる

  ・・・パイロットスタディを行う
- 費用対効果を明らかにする

研究の方法;調査対象者

20～59歳女性

気分障害圏のうつ状態（器質性障害、顕著な人格障害は除外）

発病から6ヶ月以上経過した人

大幅な処方の調整過程にある人は除く

対象の選出に当たっては患者の同意を得る。

調査協力施設

医療機関

- 晴和病院
- ひもろぎ心のクリニック
- 恩田クリニック
- 青山渋谷メディカルクリニック
- 東京えびすさまクリニック
- ほづみクリニック
- 代々木の森診療所

福祉施設

- 社会福祉法人はる　パイ焼窯
- 社会福祉法人巣立ち会　ルポゼ

研究の方法；支援の方法

各医療機関に「女性うつサポーター」を決め、その人が「支援」コーディネートする。

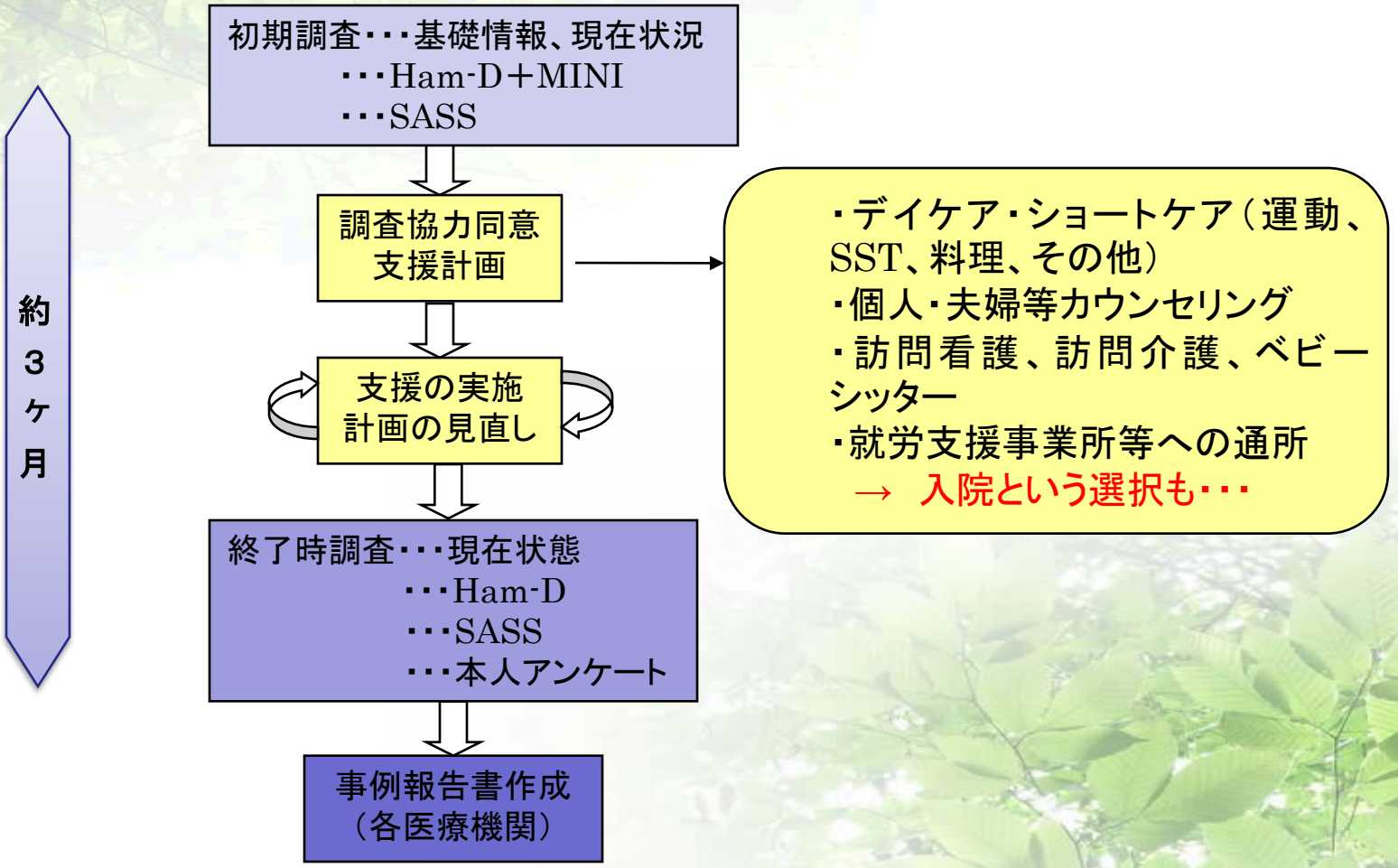
「診療以外の支援」を組み合わせる

- 家族療法、集団療法
- 個別カウンセリング
- デイケア、ショートケア
- 訪問看護、訪問介護
- 授産施設、地域活動支援センター

「サービス計画表」を用いて計画を作成し、経過を記録する。

支援の前後でHAM-DとSASSによる評価を行う。

研究計画の概念図


約3ヶ月
初期調査・・・基礎情報、現在状況
・・・Ham-D＋MINI
・・・SASS
調査協力同意
支援計画
・デイケア・ショートケア（運動、SST、料理、その他）
・個人・夫婦等カウンセリング
・訪問看護、訪問介護、ベビーシッター
・就労支援事業所等への通所
→ 入院という選択も・・・
支援の実施
計画の見直し
終了時調査・・・現在状態
・・・Ham-D
・・・SASS
・・・本人アンケート
事例報告書作成
（各医療機関）

女性うつサポーターの役割

1. 研究班に対する窓口
2. サービス計画表作成
3. 調査対象者のHam-Dなどの検査
4. 患者さんの相談に乗りながら「診療以外の支援」のコーディネーターとなる。

結果

驚き、新鮮な体験・・・

パイロットスタディから見えてきたこと

「女性うつサポーター」の果たす役割が大きい

受け止め、助言し、適切なプログラムにつなげる

- 必要に応じて支援プログラムを組み合わせる

  助言やコーチ、ケースワーク、カウンセリングや個人精神療法

  個人認知行動療法、集団認知療法、授産施設の利用

  ヘルパー、訪問看護、その他の訪問支援、入院など

- 通所授産施設を活用する方法を考える

  利用手続きを簡単にする、「精神障害者」の規定を外す、等

- 色々なサービスを取り合わせるのでサービス計画表が必要

「遷延うつ」には「診療以外の支援」が必要で効果がある

今後の課題

サンプル数を増やし対照群を設けて「診療以外の支援」の効果を検証する。

「女性うつサポーター」研修プログラムを作成

通所授産施設を有効利用するための方策について検討